

# 天王寺区の都市景観資源紹介



# 天王寺区の都市景観資源

大阪市では、天王寺区の都市景観資源の発掘のため、「天王寺区の自慢の“ええトコ”情報」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成26年3月20日に34件を都市景観資源に登録しました。

## 1. 天王寺七坂（真言坂、源聖寺坂、口縄坂、愛染坂、清水坂、天神坂、逢坂）



◆所在地  
天王寺区生玉町、逢阪1丁目、  
下寺町1丁目・2丁目、伶人町付近

◆概要  
谷町九丁目から四天王寺西門の南北と谷町筋から松屋町筋までの東西の地域には寺や神社が多く、その名を付けた坂や坂の形から呼ばれるようになった坂などがあり、その七つの坂は天王寺七坂と言われている。  
口縄坂を上りきったところには織田作之助文学碑があり、松屋町筋と逢坂の交わる公園北口交差点の南東には道しるべの石標なども存在し、坂道とともに歴史的なまちなみを形成している。

## 2. 生國魂神社



◆所在地  
天王寺生玉町13番9号

◆概要  
皇紀元年より3年前（約2700年前）、神武天皇が九州から難波津に到着の折、大阪湾に浮かぶ石山碕（現大阪城を含む一帯）に生島神、足島神を祀られたのがはじまりとされる。中世、神域内に石山本願寺が建立されたが、これは信長との石山合戦の後、寺内から出火し焼失してしまった。その後、天正11年（1583年）に豊臣秀吉が大阪城を築く地を同地と定めたため、現在の地に生國魂神社は遷された。明治維新後も官幣大社に列せられ、天下の名社として崇敬を集めたが、明治45年（1912年）の「南の大火」で炎上。大正3年（1914年）に国費により再建される。昭和20年（1945年）第1次大阪大空襲により灰塵に帰すも、同25年（1950年）には占領下にもかかわらず市民の赤誠により再建。翌26年（1951年）にジェーン台風により倒壊するも、またもや市民が中心となり同31年（1956年）に再建された。

## 3. 齡延寺



◆所在地  
天王寺区生玉町13番31号

◆概要  
皇和6年（1620年）僧義春によって曹洞宗の寺として真田山に開創され、元和9年（1623年）に現在の場所へ移転しており、志摩国領主稲葉家の菩提寺でもあった。江戸時代は「齡延寺の彼岸桜」と呼ばれた桜の名所で、今も大樹古木の多い風格のある寺として知られる。境内には、幕末に私塾・泊園書院を興して活躍した儒者の藤澤東暎・南岳父子や、画家の鍋井克之、名刀鍛冶師の左行秀の墓がある。

## 4. 銀山寺



◆所在地 いくたまてらまち  
天王寺区生玉寺町 6 番 26 号

◆概要  
天正 19 年 (1591 年) に豊臣秀吉の城下町建設の一環である寺町建設の中で現在地に創建され、当時の寺号は大福寺とあったが、後に太閤秀吉の命により寶樹山銀山寺と改称された。

その後寛永 8 年 (1631 年) に本堂・大方丈・庫裡・表門・裏門が中興され、元禄 14 年 (1701 年) には鐘樓・梵鐘・観音堂が建立された。

## 5. うえほんまちハイハイタウン



◆所在地 うえほんまち  
天王寺区上本町 6 丁目 3 番 31 号

◆概要  
上本町駅前の商業施設は、第二次世界大戦で廃墟と化したのが、商業閉鎖の危機を乗り越え、これを機に住民が「復興速進会」を発足し、昭和 23 年 (1948 年) 「国際商店会」に発展していった。昭和 52 年 (1977 年) に再開発事業の認可を受け、昭和 55 年 (1980 年) に完成した。

## 6. 上本町 YUFURA (上本町新歌舞伎座ビル)



◆所在地  
天王寺区上本町 6 丁目 5 番 13 号

◆概要  
平成 22 年 (2010 年) 8 月、大阪上本町駅南の近鉄劇場跡地に、近鉄創業百周年記念事業として建築されたショッピング・ゾーン。同年 9 月には、この 6 階に、大阪新歌舞伎座が半世紀ぶりに新開場した。広場に面した西面ファサードのアルミキャストルーパーは旧大阪新歌舞伎座の連続唐破風をモチーフにしており、隣接する駅・ホテル・百貨店と立体的に接続した広場をつくっている。

## 7. 安居神社



◆所在地  
天王寺区逢阪 1 丁目 3 番 24 号

◆概要  
すくもこのかみ  
少彦名神、菅原道真を祀る古社。昌泰 4 年 (901 年) 菅原道真が太宰府に左遷された際、河内の道明寺にいた伯母おくしほ覺寿尼を訪ねて行く途中、ここへ立ち寄って安井(休憩)した。当時、道真に同情した村人がおこしを差し上げると、お礼にと菅原家の紋所「梅鉢」を渡した。これが、今でも大阪名物の「栗おこし」の商標の梅鉢となったといわれている。安居天神社は、その道真の死後の天慶 5 年 (942 年)、道真の霊を祀るために村人たちが建てたもの。当地は四天王寺の僧侶がここで夏安居(雨季の間に外出を控え寺院で修行に専念すること)することもあり、「安井」が「安居」になったという。また、享保 11 年 (1726 年)、大丸の業祖下村彦右衛門氏が、社殿の破損荒廃の甚だしい事を嘆き修理するなど、歴代大丸店主の神社に対する信仰は篤く、世に大丸天神と称せられる所以である。

境内には、道真も口にしたといわれる天王寺七名水のひとつ「かんしづめ(痢鎮め)の井」のほか、大坂夏の陣で徳川方に討たれて戦死した真田幸村の祈念碑銅像が建つ。

境内には、道真も口にしたといわれる天王寺七名水のひとつ「かんしづめ(痢鎮め)の井」のほか、大坂夏の陣で徳川方に討たれて戦死した真田幸村の祈念碑銅像が建つ。